平成２８年度

第３回学校評議員会議

学校評議員（外部評価委員）

北海道社会福祉事業団白糠学園長	山田　誠　様
白糠町教育委員会指導室長	中岡美緒　様
白糠町保健福祉部福祉課長	下重哲也　様（欠席）
北海道教育大学釧路校准教授	小渕隆司　様（欠席）
北海道白糠養護学校PTA会長	上西春美　様

概 要

１　　日時平成２９年３月８日（水）１３：３０～１５：３０

２　　場所北海道白糠養護学校　会議室

３　　日程等

（１）　校長挨拶

（２）　日程説明

（３）　評議内容

①学校評価及び次年度の改善点について

②本年度の学校経営と次年度の経営方針について

③質疑応答

（４）　次年度の学校評議員について

（５）　校長挨拶

白糠養護学校学校評議員議事録（要旨）

平成２９年　３月　８日

（校　長）: お忙しい中、お越しいただいてありがとうございます。ご多忙で参加出来ない方もいらっしゃいますが、１年の反省と来年度に向けてご意見をいただければありがたいと思います。

※教頭より学校評価の概要の説明

（校　長）: 児童生徒の人権を守る教育の推進について、昨年４月から障害者差別解消法が施行されています。

今年度の反省の中で、呼称について指摘がありました。あらためて、「ちゃん」付けではなく「〇〇さん、〇〇くん」と呼び、年齢にあった呼称を徹底していくようにしていこうと考えています。

（上西氏）: 保護者も意識を変えていかなければならないと思います。ただそれで子どもと距離感が出ないようにしたいです。

（校　長）: 児童生徒にも「〇〇さん、〇〇くん」といった呼称で呼ぶことで年齢の意識付けをさせることは大事な事です。先生方も普段から意識することが必要です。

（山田氏）: 呼称の問題ですが、やっと白糠学園でも定着してきました。時間はかかりましたが浸透してきてきたかなという感じです。

（上西氏）: 今まで身についた習慣を変えるのは、意識していかないと難しいですね。

（校　長）: いままでの習慣を変えることは難しいですが、この取り組みが人格を尊重した活動として定着していけばいいと思います。公的な場でメリハリをつけて呼称することで、児童生徒もわかってくれればいいと思います。

（上西氏）: 飛び出しに注意が必要な生徒がいるため、自動ドアを手動で開けるようにしている件です。安全は第一なのはわかりますが、あらゆるところが施錠されているのは少し窮屈になってきたという印象もあります。

（校　長）: 命にかかわることなのでご理解願いたいと思います。

（上西氏）: 施錠してよしとするのではなく、本人の将来のためにも、本人にいけないことだと認識させる指導も重要だと思いますが。

（校　長）: こどもの内面の成長を促していく必要はあります。

（上西氏）: また、今回のように自動ドアを手動で開けるなど、施設の運用を変更するような場合は、保護者にも事前に連絡していただければありがたいと思います。

（教　頭）: 児童生徒の内面の成長という話ですが、子どもの状態を観察し、学園さんと支援会議を行うなど、関係機関と連携をとり、子ども達一人一人の教育的・療育的

な対応・対策をひとつひとつ積み重ねていっているところです。

（上西氏）：ここ数年では、学校と白糠学園との話し合いは増えていると感じます。

（上西氏）：今年の大量の初任者赴任や次年度の校長の変更など、校内体制に不安がある部分があります。

（校　長）：数年後を見据え、個々の職員が成長できるよう分掌・学年に人員配置しているところです。確かにベテランと若手の実力の差はすぐに埋められません。今は、学校が醸造に向かう過渡期で我慢が必要な時かもしれませんが、職員数でカバーできると思います。

　また、先生方一人一人と現在人事面談をしていますが、特に若手教員の児童生徒に対する認識が少し深まってきたなと感じるところがあります。また、教頭が若手教員の研修を月に１回行っており、手応えを感じているところです。それと今年度の本校の教育研究テーマは「キャリア教育」ですが、今年度から研究チーフが若手になり、身の丈にあった研究となることで、職員全体の理解が広がるといったような事もあります。

（上西氏）：若手教員が多い学校は活性化が図られていいと思いますが、例えば先輩教員と若手教員の間で、若手が物を言えないなどの弊害はありませんか。上下の意思疎通がスムーズになっている体制なのでしょうか。

（校　長）：若手の職員も自己主張して意見を言うようになってきており、適度に風通しのよい体制になっていると思います。教員同士の意見の衝突もできています。

（教　頭）：他校と比較しても、いわゆる「上下」の意思疎通や協力がよくとられている学校だと思います。

（上西氏）：先生方が強く団結されていることがよくわかりました。

（校　長）：児童生徒への教育は、学校だけでは教育は成り立ちません。どさんこ事業を活用させていただき、漁師の方や駒踊り保存会の方々に来校していただいたり、校外学習で漁協や生協、警察署に行って職業に対する勉強をさせてもらいまいた。地域や関係機関との繋がりが作れたと思っています。

（上西氏）：校外学習で児童生徒が外に出ることで、特別支援学校の生徒への理解が広がることもあるので非常に良い取り組みだと思います。

（教　頭）：次年度は白糠町選挙管理委員会へ出向き、学習する機会を持つことも検討しているところです。白糠町の協力をお願い致します。

（中岡氏）：キャリア教育が、単に「就職するための教育」ということではなく、どう生きていくか、また地域の人がどう生きているか学ぶ教育という意味で、非常に重要視されてきています。どさんこ事業を活用されているということでしたが、白糠

町内の小中学校でも「ふるさと教育」の中で取り組みを重視しているところなので、こちらの学校でもその流れで取り組んでいただけるのはありがたいと思っています。

　こちらで取り組んだ内容と成果を、今度は町内の小中学校の特別支援学級に、地域研修の機会などに広めていただけるとありがたいと思います。

（中岡氏）：学校評価の保護者のアンケート回収率が少ないと思います。なぜでしょうか。

（教　頭）：保護者数を生徒数の数と同じにしていますが、白糠学園に措置で入所している児童生徒が全生徒の半数近い状態です。措置のお子さまは、家庭での養育が困難などの理由により入所するため、アンケート回収に保護者と連絡をとるのが難しいため結果的に回収率が下がる傾向があります。

（中岡氏）：回答回収が困難なご家庭は、母集団から外したほうがいいのではないでしょうか。

（教　頭）：ご意見ありがとうございます。そちらの方向で検討させていただきます。

（教　頭）：ＰＴＡの行事を設定しても、参加者がなかなか集まらないというのは悩みの種です。

（上西氏）：同感です。

（教　頭）：次年度５月の避難訓練後に、２次避難場所への避難の在り方として、白糠学園、警察、町役場地域防災課と連携して話し合う予定です。

（上西氏）：先日こちらで行われた、防災に関する研修会も評判がよかったと聞いております。